

素顔の直島

～直島の現状と直島プロジェクトの歩み～

香川大学経済学部准教授 古川尚幸

はじめに

私がはじめて直島を訪れたのは、いまから約 5 年前の平成 17 年の早春であった。当時、英国ニューカッスル大学での在外研究を終え、ふと英国の生活を思い出したとき、活気に満ちあふれた英国の小さな田舎まちを訪れた思い出が甦った。生き生きとした人々の暮らし、元気なまち……。いま思えば、英国での体験がキッカケとなり、私は地域に関心を抱くようになった。

このような私に、学生たちがチャンスを与えてくれた。直島の知人が教えてくれた直島の現状。GW には多くの観光客が訪れ、食事や休憩もままならない様子。このことを何げなくゼミの終わりの雑談で学生に伝えたところ、学生から「自分たちが直島でカフェをやってみてはどうでしょう？」と提案があった。

本稿で紹介する香川大学直島地域活性化プロジェクトは、このような学生からの提案で、思いがけずにスタートしたプロジェクトであった。

本稿が、直島を訪れたみなさまに、直島の現状と直島で活躍する人々、学生たちを知っていただくキッカケになれば幸いである。

平成 22 年 2 月

古川尚幸

1. 直島について ⁽¹⁾ ⁽²⁾

直島（香川県香川郡直島町）は、高松市から北へ約 13 キロ、岡山県玉野市から南へ約 3 キロの備讃瀬戸に浮かぶ島で、大小 27 の直島諸島の中心に位置する（図 1）。直島本島は、東西約 2 キロ、南北約 5 キロ、周囲約 16 キロ、面積は 8.13 平方キロで、人口は 3,365 名（平成 21 年 1 月 1 日現在）の小さな島である。現在では、直島エコタウン事業のもと、三菱マテリアル直島製錬所によって豊島産業廃棄物を処理する中間処理施設が設置されたことから「環境の島」として、また、ベネッセコーポレーションによるベネッセハウスや地中美術館、家プロジェクトの開設から「芸術の島」として、日本のみならず世界から注目を浴びている。

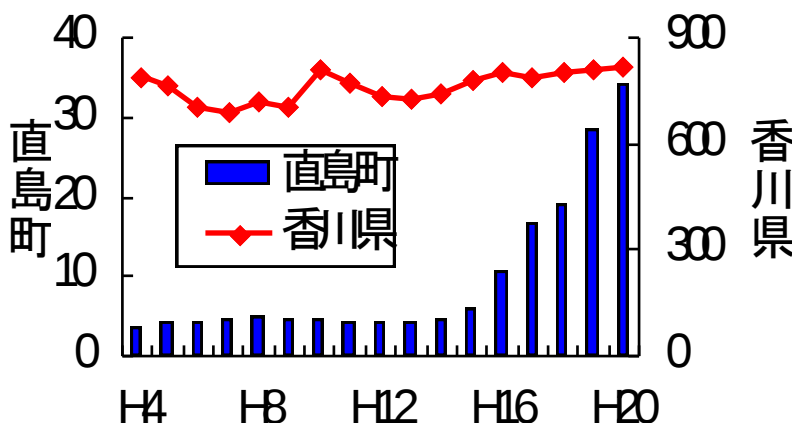
図 1 直島の位置



出所：Google マップに著者が加筆

このような状況のなか、直島を訪れる入込客数も増加の一途を辿っている。香川県観光交流局および直島町観光協会の資料⁽³⁾によると、平成 20 年度については、観光目的で香川県を訪れた入込客数が 814 万人であったのに対し、観光目的で直島を訪れた入込客数は 34.3 万人であった（図 2）。

図 2 香川県および直島の観光入込み客数の推移（単位：万人）



これまでの香川県における代表的な観光地である屋島や栗林公園を訪れた観光客がそれぞれ 60 万人、63 万人であることから見ても、現在、いかに直島が注目されているかをうかがうことができる。

2. 直島における現代アート

直島における現代アートは、ベネッセアートサイト直島によって展開されている。以下は直島における現代アートの歩みである。

1992	ベネッセハウス オープン
1995	ベネッセハウス別館 オープン
1997	家プロジェクト 始動
2001	THE STANDARD 開催
2004	地中美術館 開館
2006	NAOSHIMA STANDARD2 開催

家プロジェクトでは、すでに直島に存在していた古民家を利用した作品など、現在 7 作品が公開されている。

年	作品名	アーティスト名
1998	角屋	宮島達男
1999	南寺	ジェームズ・タレル
2001	きんざ	内藤礼
2002	護王神社	杉本博司
2006	基会所	須田悦弘
2006	石橋	千住博
2006	はいしゃ	大竹伸朗

3. 直島における住民活動

直島では、伝統芸能、文化、教育など、様々な分野で住民団体が活動を行っている。ここでは、紙面の都合上、2つの団体について述べる。

①直島町観光ボランティアガイドの会

直島町観光ボランティアガイドの会（会長：高橋昭典 氏）は、直島を訪れる観光客向けのボランティアガイド活動を行う住民団体である。直島で展開されている家プロジェクトを中心に、直島の歴史・文化など様々な側面から直島を紹介している団体である。メンバーには高齢者が多いのは事実だが、高橋会長をはじめ、年齢を感じさせない感性でガイドを行っている。後述のように、平成19年からは、直島プロジェクトメンバーもガイドの一員に加わり、活動を行っている。

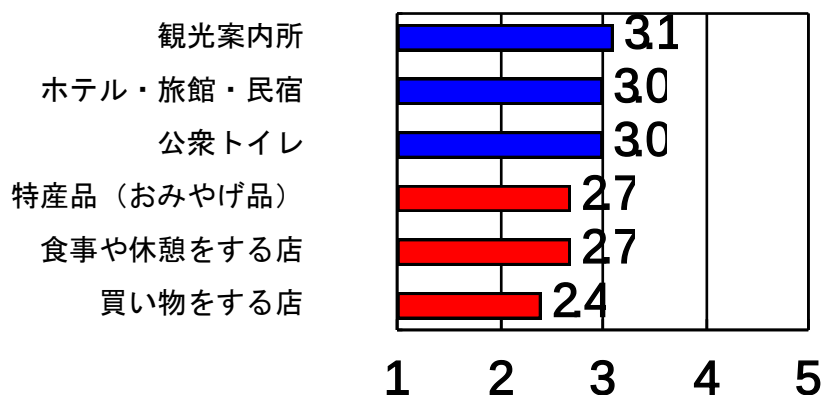
②うい・らぶ・なおしま

うい・らぶ・なおしま（代表：中根清孝 氏）は、エコアイランドなおしま推進委員会のもと、住民主体の環境調和型まちづくり事業の一環として組織された住民団体である。毎年5月のGW期間中に開催される「エコTシャツコンテスト」、毎年夏休みに開催される「なおしま自然探検隊」、島内の植樹や花の苗の配布による「緑いっぱい、花いっぱいプロジェクト」などを中心に、島内外の人々との交流を通じて、直島から情報発信を行っている。

4. 観光客から見た直島における問題点 ⁽⁴⁾ ⁽⁵⁾ ⁽⁶⁾

香川大学経済学部古川尚幸研究室では、平成 17 年度より直島を訪れた観光客を対象として、直島のイメージや地域資源に関するアンケート調査を行ってきた。「満足である」との回答に 5 点、「どちらとも言えない」に 3 点、「不満である」に 1 点を与えて集計したところ、直島を訪れた観光客の満足度について、特産品、食事や休憩をする場所、買い物をする場所への不満を持っていることが明らかとなった（図 3）。

図 3 直島を訪れた観光客の満足度（下位）



このアンケート調査の結果を受けて、後述する香川大学直島地域活性化プロジェクトは、平成 17 年 10 月に香川大学経済学部古川研究室の学生を中心に発足した。

5. 香川大学直島地域活性化プロジェクト

香川大学直島地域活性化プロジェクト（以下、直島プロジェクト）では、前述した平成 17 年度のアンケート調査の結果を受けて、学生チャレンジショップの運営を基盤に、様々な活動を行っている。その目的は、つぎの3つを達成することにある。

①実践的経営教育の手法開発

学生チャレンジショップの運営を通じて、様々な問題を解決することにより、座学では得ることのできない実学を身につける。

②地域活性化の手法開発

地元住民・企業・自治体と協力し地域活性化に貢献することを通じて、直島における地元経済の自立促進の手助けとなるモデルを提示する。

③大学の地域貢献

香川大学として、一連の活動を通じて、地域に貢献する。

このプロジェクトでは、現在、経済学部・教育学部・工学部・農学部の1～4年生の約35名が参加し、土曜日、日曜日、祝日のカフェ営業はもちろん、週1回のプロジェクトミーティングや部門ごとのミーティングなど、精力的に活動を行っている。

このプロジェクトが活動していくうえでの、活動内容について、大きな柱はつぎの5つである。

- ①「和 cafe ぐう」運営
- ②観光ボランティアガイド
- ③地域活動
- ④情報発信
- ⑤地元高校との連携

以下では、それぞれの項目について、詳しく紹介する。

①「和 cafe ぐう」運営

平成18年8月5日より現在に至るまで、「和 cafe ぐう」の運営を継続して行っている（写真1）。

写真1 「和 cafe ぐう」外観



「和 cafe ぐう」にご来店いただいたお客様数は、平成 20 年 6 月 22 日に、のべ 10,000 名を突破し、平成 22 年初夏には、のべ 20,000 名に達する予定である。

また最近では、「和 cafe ぐう」を運営するうえで、直島プロジェクトに参加している学生はもちろん、観光客や直島島民に対しても、環境問題について訴える目的で、環境に配慮したカフェ経営に取り組んでいる。具体的には、以下のとおりである。

④グリーン電力証書による自然エネルギーの利用

「和 cafe ぐう」で使用されている年間電力は約 4,000kWh であるが、これらの電力を風力発電およびバイオマス発電由来の電力で賄っている。これは、日本自然エネルギー株式会社が発行するグリーン電力証書システムを利用したものがある。このシステムでは、電力会社から供給される電気に対して電気料金の支払い、さらに、このシステムを利用して自然エネルギー発電による「環境付加価値」を支払うことで、店舗内で使用している電気を自然エネルギーにより発電したグリーン電力とみなすことができるものである。

⑤食品廃棄物をコンポストで処理

「和 cafe ぐう」で廃棄される食品廃棄物は、直島町による可燃ゴミ収集により処理されるのではなく、店舗敷地内に設置されたコンポストにより堆肥化され、肥料として利用されている。

◎エコバッグや塗り箸の利用

「和 cafe ぐう」において使用される食材の仕入れについては、レジ袋を利用することなく、学生によってエコバッグを利用している。また、「和 cafe ぐう」で使用する箸については、割り箸を利用せず、何度も利用可能な塗り箸を使用している。

なお、これらの環境に配慮した取り組みについて、平成 20 年 12 月に開催された環境省主催「一村一品知恵の環づくり」事業の香川県大会である「Stop!地球温暖化～みんなでやろうよ。地球に「ええこと」Party～2007」において、第 1 位の「めっちゃめっちゃ『ええこと』賞」を受賞し、香川県代表に選出された。さらに、平成 21 年 2 月に東京・品川で開催された「ストップ温暖化『一村一品』大作戦」に香川県代表として出場した（写真 2）。

写真 2 ストップ温暖化『一村一品』大作戦出場



②観光ボランティアガイド

前述のように、現在、直島町には、地元住民による直島町観光ボランティアガイドの会が存在し、多くの観光客のガイドをボランティアで行っている。

この直島プロジェクトでは、平成19年8月から、NPO直島町観光協会および直島町観光ボランティアガイドの会と協力して、この観光ボランティアガイドにも取り組んでいる(写真3)。この取り組みは、年々増加する観光ボランティアガイドへの需要と、ガイドの高齢化による島内人材の不足という現状に鑑み、多くの人々に直島の魅力を伝えたいとするプロジェクトメンバーの思いと、直島町観光ボランティアガイドの会からの要請が一致し、結実したものである。

写真3 学生メンバーによるボランティアガイド



②観光ベロタクシー事業

直島は「芸術の島」として知られているが、「環境の島」としても様々な取り組みが行われている。そのひとつとして、平成 20 年 9 月に、香川県環境政策課と直島プロジェクトが協力して「観光ベロタクシー」の実証実験を行った。

ベロタクシーとは、ドイツで開発された 3 人乗りの自転車タクシーのことで、車体に広告を掲載できることから、環境にやさしい動く広告として知られている。日本では、NPO 法人環境共生都市推進協会（VELOTAXI JAPAN）が窓口となり、全国で運行している。

今回の直島での観光ベロタクシー実証実験では、直島プロジェクトの学生は、直島の町並みを観光案内しながらベロタクシーのドライバーを務める役割を果たした（写真 4）。

写真 4 観光ベロタクシー実証実験



③地域活動

直島プロジェクトでは、地域の住民団体と協力し、様々な活動を行ってきた。以下では、それぞれについて紹介する。

①なおしま自然探検隊

地元住民団体「うい・らぶ・なおしま」と協力し、平成 18 年から毎年夏休み中に「なおしま自然探検隊」を開催している（写真 5）。

写真 5 なおしま自然探検隊



このイベントは、海ホタルなどの海辺に生息する生物を観察するもので、直島内、直島島外（主に高松市内）の児童とその保護者が参加して開催した。そのなかで、直島プロジェクトメンバーは、参加した児童との交流や、参加者の食事の準備などに携わった。

⑥英語講習会の開催

平成 20 年から、夏休み期間中、「和 cafe ぐう」において、講師として水野康一先生（経済学部教授）を講師に迎え、地元住民を対象とした英語講習会を行っている。この講習会は直島プロジェクトの学生が企画・運営を担当し、さらに講習会では、参加者のチューター役として、水野先生のアシスタントを務めた（写真 6）。

写真 6 英語講習会



⑦ドッジボール大会の開催

地元スポーツ少年団の協力のもと、平成 21 年 3 月に、直島小学校および直島中学校の児童・生徒を招待し、食育を取り入れた手巻き寿司大会およびドッジボール大会を開催した（写真 7）。

写真 7 ドッジボール大会



④情報発信

直島プロジェクトでは、プロジェクトの成果について、様々な機会をとらえて情報発信を行ってきた。平成 20 年 9 月に北九州市で開催された「瀬戸内海研究フォーラム in 福岡」、平成 21 年 9 月に大阪市で開催された「瀬戸内海研究フォーラム in 大阪」(主催：瀬戸内海研究会議)において、直島プロジェクトについて学生が発表した。特に福岡で開催された平成 20 年度のフォーラムでは、発表に対して、優秀賞を受賞することができた。

また、平成 18 年度から、香川大学経済学部オープンキャンパスにおいて、出席した高校生に対して、直島プロジェクトを紹介するプレゼンテーションを行うとともに、具体的な活動を紹介するための模擬店を出店し、好評を得ている。

⑤他大学との交流

直島プロジェクトでは、他大学のまちづくりや地域貢献に取り組んでいる団体と積極的に交流を行ってきた。平成 20 年 11 月に大阪人間科学大学で開催された「第 9 回全国まちづくりカレッジ in 摂津」、平成 21 年 11 月に名古屋学院大学で開催された「第 10 回全国まちづくりカレッジ in 名古屋」に参加し、他大学との交流を深めた（写真 8）。平成 22 年度は、直島プロジェクトが当番校となり、直島において開催する予定である。

今後も引き続き、他の大学で活動している団体とさらに交流を深めるとともに、「全国まちづくりカレッジ」など情報発信の場に積極的に参加し、ネットワークを構築していきたい。

おわりに

本稿では、直島の現状を概観するとともに、直島で活動する香川大学直島地域活性化プロジェクトについて紹介した。直島プロジェクトでは、引き続き直島においてカフェの経営を継続的に行うとともに、ここを拠点に、地元住民、地元自治体、地元企業などと協力し、様々な地域活動を展開していきたい。

最後になりましたが、本稿をまとめるにあたりご支援いただきました香川大学瀬戸内圏研究プロジェクトならびに研究代表者である稲田道彦先生（経済学部教授）に心より感謝いたします。また、直島のみなさま、直島プロジェクト学生諸君に感謝いたします。

参考文献

- (1) 直島町役場『直島町史』平成2年9月
- (2) 直島町役場『直島町町勢要覧』平成16年10月
- (3) 香川県観光交流局『香川県観光客動態調査』平成21年5月
- (4) 馬淵キノエ・古川尚幸 日本商品学会西日本部会大会資料
平成17年12月
- (5) 古川尚幸・馬淵キノエ 日本商品学会西日本部会大会資料
平成18年10月
- (6) 古川尚幸 社会経済史学会中四国部会大会シンポジウム資料
平成18年11月

直島に関する情報

①直島町役場：

URL：<http://www.town.naoshima.kagawa.jp/>

②NPO 直島町観光協会

TEL：087-892-2299 URL：<http://www.naoshima.net/>

③直島町観光ボランティアガイドの会：

NPO 直島町観光協会にお問い合わせください。

④うい・らぶ・なおしま：

URL：<http://www.welovenaoshima.com/>

⑤香川大学直島地域活性化プロジェクト「和 cafe ぐう」：

URL：<http://www.ec.kagawa-u.ac.jp/~naoshima/goo/>

その他の詳細は、なおしまエリアマップをご参照ください。